

「主よ お救いください」

(詩篇12・1～8)

一、「主よ お救いください」

詩篇12篇の時代背景を考えますと、かなりたいへんな時代であったと思われます。1節をご覧ください。〈主よ お救いください。敬虔な人は後を絶ち誠実な人は人の子らの中から消え去りました。〉とあります。ここで語られている「敬虔な人」「誠実な人」は、神を畏れる(恐れる)者の意味です。社会の中に神を畏れる(恐れる)人々が居なくなってしまうという状況です。そのような社会状況を、いつの時代、どこに当てはめることができるかを考えますと、いくつか候補はあるのですが、少なくともダビデがイスラエル全土の王であった時代は、そのようなことはなかったと思われず。

と言うことは、表題に〈ダビデの賛歌〉とありますが、12篇はダビデの作ではなく、「ダビデにささげる詩篇」と捉えたほうが良さそうです。〈敬虔な人は後を絶ち 誠実な人は人の子らの中から消え去りました。〉という社会になったら、悲惨なことです。「主よ お救いください」と、祈るしかありません。このように祈った純粹な信仰者が、12篇の作者です。そついう意味で作者は、ダ

ビデと同じような信仰と感性を持った方であったと思われず。

二、罪はことばに表れる

人間の罪が、すなわち神を認めない、信しない、傲慢になることが、もっともはっきり現れるのはことばです。ことばに、その人が持っている思想や感性がはつきりあらわれます。

詩人が置かれていた社会状況はたいへんなものであったようです。2節より4節をご覧ください。〈人は互いにむなししいことを話しへつらいの唇と二心で話します。主がへつらいの唇と傲慢の舌をことごとく断ち切ってくださいますように。彼らはこう言っています。「われらはこの舌で勝つことができる。この唇はわれらのものだ。だれがわれらの主人なのか。〉と詩人は語っています。2節のむなししいことを話しですが、「つそを話す」「偽りを言う」の意味です。〈へつらいの唇〉とは、口では聞き心地の良いことばを話すことです。心が裏腹であるなら、その人に心を許すことができませんし、信頼関係はできません。弱肉強食の世界です。信仰者にとつては、生きていながら地獄を見るような様相です。そこで、詩人は神に叫ぶわけです。「主よ お救いください」と。

三、神の介入

そのような状況にあって、神は信仰者の訴えにこたえて介入されます。それが5節です。〈主は言われます。「苦しむ人が踏みじられ 貧しい人が嘆くから今わたしは立ち上がる。わたしは彼をその求める救いに入れよう。〉と。ここに書かれている「苦しむ人」「貧しい人」とは、詩篇10篇にも同じ言葉が現れましたが、文字通りの意味ではありませんで、神を信じ、神に信頼する者の意味です。

私共が祈り訴えると、神が介入されます。もちろん神は、私たちが求める前から、私共の必要をこ存しです。ですがなぜか私共が祈り訴えることを待っておられるようです。ですから、「主よ お救いください」と祈るわけです。

自分自身で解決しようとしめすと、むずかしいばかりか、ひと言語ることによって以前にも増してむずかしい状況になることがあります。主に祈り、主に介入していただくのがよろしいです。

四、信仰者の依って立つもの

6節をご覧ください。〈主のことばは混じり気のないことば。土の炉で七度試され 純化された銀。〉とあります。〈主のことば〉とは何でしょうか。詩人が語っているのは「律法(トーラー)」であると思われず。言い方を変えざるなり、聖書です。聖書は不思議な書物です。何せ、聖書はすべて神の霊感によるもの

だからです(11テモテ3・16)。すなわち、神の息が吹き込まれた書だからです。聖書は、混じり気のない神のことばであり、土の炉で七度試され、純化された銀にたとえることができます。私たちは聖書を聞くことに、神の語りかけを聞きます。そして礼拝においては、生ける神のことばであるイエス・キリストの善き知らせを聞きます。

話はきょうの聖句に戻りますが、こうして詩人は、神への信仰が更新されます。それが、7節です。〈主よ あなたは彼らを守られます。今の代からとこしえまでも 彼らを保たれます。〉と。〈彼ら〉とは「苦しむ人」「貧しい人」です。すなわち、神を信じ、神に信頼する者です。この告白は、御霊に導かれてすなわち聖霊に導かれてもたらされる確信です。

最後に8節です。〈人の子の間で卑しいことがあがめられているときには 悪しき者がいたるところで横行します。〉とあります。詩人は、神に祈り、神に訴え、神の介入を確信し、神への信仰が更新されたものの、現実はずぐには変わらないことを知っています。ですが、8節の言葉より、主にゆだねている信仰者の「余裕」を窺い知ることができます。

御霊に導かれて主に祈り、主に訴え、神の働きを確信し、信仰が更新される日々を過こすつではありませか。